高橋清子. 2005.「タイ語の配慮表現」佐々木倫子（研究代表者）『多言語多文化時代の文化リテラシー：配慮表現をめぐって』（文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（B）課題番号 15320066）「日本語教育と文化リテラシーに関する理論的研究および実践モデルの開発」研究成果中間報告書）, 77-88.
Takahashi, Kiyoko. 2005. Thai Expressions of Consideration. In Sasaki, Michiko (ed.) *An Interim Report of a Theoretical Study on "Cultural Literacy" Applicable to the Teaching of Japanese as a Foreign Language, along with Developing the Practical Model*, 77-88.

タイ語の配慮表現

高橋　清子

キーワード：　タイ語、タイ社会、タイ人配慮

０．はじめに

現在、巷の書店にはタイに関する本やタイ語の学習書が何冊も置いてあり、それなりに売れている。タイに関心を持つ人が増えていることの現れであろう。1980 年頃からタイ政府は観光産業の振興に力を入れ、毎年多くの日本人観光客がタイを訪れるようになった。1960 年代および 1990 年代には多くの日本企業がタイへ進出し、駐在員としてタイで働く人が増大した。日本の教育機関がタイの教育機関と交換留学協定を結ぶことも今や珍しくない。その他、統計には現れないような草の根の日タイ交流活動に携わっている人々が相当数いる。大学、語学学校、カルチャーセンターなどでタイ語クラスを開設するところが増えているが、受講者の学習動機は、タイに行ったことがある、タイ人の友人や知り合いがいる、親戚がタイ人と結婚した、これからタイに働きに行く､だからタイ語が話せるようになりたい､タイについてもっと知りたい、等々の自らの体験に根ざしたものが多い。タイ人とタイ語でうまくコミュニケーションできるようになりたいと願っている学習者は、語彙や文法の知識を身につけること以上に、タイ社会ではどのような対人配慮が期待されているのか、具体的にどういう場面でどのような方法で配慮の気持ちを表すのかといった配慮表現に関する知識を身につけたいと思っている。タイ語教師はそうした学習者の要望に応えなければならない。

本稿の目的は、タイ語の配慮表現を概観することである。多くの参考文献に言及しながら配慮表現の具体例を挙げていく。なお、筆者は配慮表現を広く「相手の心情を気遣う行為全般」と捉えているので、本稿で扱う配慮表現は音声による言語行動のみならず身振りや表情などの非言語行動も含む。

タイ語の配慮表現のあり方は、タイ語話者によって構成される社会の文化に規定されている。したがって、タイ語の配慮表現を理解するためには、タイ社会の価値観や人間関係についての知識が必須である。そこでまず第１章で、タイ社会の価値観と人間関係について簡潔に述べる。第２章では対人配慮に関わるタイ語の語彙を、第３章では場面別の配慮表現を紹介する。第４章では対人配慮に関わる非言語表現について述べる。そして第５章で結語を述べる。参考文献リストを末尾に添えた。

高橋清子. 2005.「タイ語の配慮表現」佐々木倫子（研究代表者）『多言語多文化時代の文化リテラシー：配慮表現をめぐって』（文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（B）課題番号 15320066）「日本語教育と文化リテラシーに関する理論的研究および実践モデルの開発」研究成果中間報告書）, 77-88.
Takahashi, Kiyoko. 2005. Thai Expressions of Consideration. In Sasaki, Michiko (ed.) *An Interim Report of a Theoretical Study on "Cultural Literacy" Applicable to the Teaching of Japanese as a Foreign Language, along with Developing the Practical Model*, 77-88.

１．タイ社会の価値観及び人間関係

概してタイの人々は、訪問者には親切に接し、目上の者には恭しい態度をとる。各々の立場（地位・役割）をわきまえることを善しとし、礼節を重んじる人々である。タイ社会では、礼儀正しく柔和で穏やかな人が好まれる。しかし最近は、若者の意識や価値観に変化が見られる。

タイ社会では伝統的に目上の者に対して敬意を示すのが礼儀だが、長老制社会のように年齢が絶対的な基準となっているわけではない。また、タイ社会が階層社会であることは間違いないが、カースト制のような固定的な身分制度があるわけでもない。

一般にタイ人は、両親、恩師、年上の親戚、親友など恩義ある人々に気遣いや遠慮の気持ちを持つ。親切であることや人助けすることに価値を置き、他人から気前が悪い、寛容でないと見られることを嫌う（Komin 1990）。タイ社会の人間関係は、個人と個人がその場限りのつながりを持つルースな二者関係の機能する場面が多いと言われる（石井・吉川 1993）。お互いの立場を細かく考察して人間関係を設定し、それに合った言葉遣いをし、あるいは身振りをしようとする（宮本 1989）。組織の人間として人付き合いすることが多い日本社会に比べ、タイ社会では一個人として自分の好みをはっきりさせて人付き合いすることが多い。名前を呼ぶときも必ず個人名を使う。姓名は二次的な意味しか持たず、親しい間柄でも姓名を知らない場合が少なくない。

しかし注意すべきは、タイ社会は均質な社会ではなく、非常に多様な社会であるという点である。まず、民族が異なれば生活様式も価値観も異なる。同じタイ系民族でも、地域ごとに生態的・文化的な差が見られる。都市と農村との差も大きい。同じ都市でも、首都バンコクと地方都市の差がある。そして階層間の違いがある。貧富の差も大きい。また、個々人の個性差も大きい。

２．対人配慮に関わる語彙

ここでは、対人配慮に関わる語彙として、敬語（王語）、丁寧小辞、呼称を取り上げる。

2.1 敬語

タイ語には、王族に話しかけるときや王族に関することを言うときに用いる尊敬語があり、王語と呼ばれる。例えば、王の食べる動作に言及するときは「キン（食べる）」ではなく「サワーイ（きこしめされる）」という王語を使い、王の心に言及するときは「チャイ（心）」ではなく「プララーチャハルタイ（大御心）」という王語を使う。元来、宗教に関連する言葉遣いだったが、国王が神格化され国王に対しても用いられる

高橋清子. 2005.「タイ語の配慮表現」佐々木倫子（研究代表者）『多言語多文化時代の文化リテラシー：配慮表現をめぐって』（文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（B）課題番号 15320066）「日本語教育と文化リテラシーに関する理論的研究および実践モデルの開発」研究成果中間報告書）, 77-88.
Takahashi, Kiyoko. 2005. Thai Expressions of Consideration. In Sasaki, Michiko (ed.) *An Interim Report of a Theoretical Study on "Cultural Literacy" Applicable to the Teaching of Japanese as a Foreign Language, along with Developing the Practical Model*, 77-88.

ようになり、さらに国王以外の王族にも使用されるようになった。現代では、官庁用語あるいは相手との関係を考慮して特別な言葉遣いをしなければならないときに使う丁寧語としても使われるようになってきている。狭義の王語は王族や僧侶を対象とする尊敬語だが、現在の広義の王語（敬語）には官庁用語や丁寧語も含まれると言ってよい（堀江 1996）。

2.2 丁寧小辞

タイ語には、節や語の末尾に添えたり単独で返事に使ったりする待遇小辞があり、待遇小辞のどの型を使用するか、あるいはまったく使用しないかによって対者態度が明確化する。話し手の丁寧さを表す「クラップ（男性が使う）、カァ（女性が使う）」という待遇小辞は丁寧小辞と呼ばれる。丁寧小辞は、話し手の発話を思慮深く、そして柔和に聞こえさせる。丁寧小辞を使う話者は礼儀正しいと見なされる。タイ語で丁寧であることは、自らの地位や立場（男性・女性の区別を含む）に相応しい話し方をすることも含まれる(Prasithrathsint 2001)。

2.3 呼称

呼称とは、話し手、聞き手、第三者を指す言葉で、それぞれ自称、対称、他称と呼ばれる。タイ語では代名詞、名前、親族名、役職名などが呼称に含まれる。タイ語の呼称は、話し手と聞き手の地位関係、親疎の度合い、性差、その他の状況によって細かく使い分けられる。英語の場合、自称は一人称代名詞"I"、対称は二人称代名詞"you"ですべて済んでしまうが、タイ語ではそうはいかない。適切に呼称を用いることができなければ円滑な人間関係を作ることができない。

タイ人は疑似親族意識が強く、親族名や固有名（愛称）を呼称として使用する範囲が広い（ケェンチャック 1989）。近所の人を「パー（伯母）・ノック（愛称）」「カイ（愛称）」などと親族名や愛称で呼ぶのはもちろん、職場でも同僚であれば「ピー（兄・姉）・レック（愛称）」「デーン（愛称）」などと親族名や愛称で呼ぶ。日本では他人から「おじさん」や「おばさん」と呼ばれるのを好まない人もいるが、それは親族名が世代階梯的に使われているからである。「お姉さん」と呼ばれる世代があり、「おばさん」と呼ばれる世代があり、「おばあさん」と呼ばれる世代がある。「おばさん」と呼ばれることは「おばさん」の世代に属していると定義されることに等しいので不愉快なのだ。しかしタイでは、疑似親族関係を設定する。相手と自分の年齢差を考え、もし実際に自分の親族であればその人は自分の何に相当するかを考える。「弟・妹（ノーン）」や「子ども（ルーク）」など年下の親族名もタイでは使用される。例えば、30 歳のタイ人は 20 歳の若者を「弟・妹（ノーン）」と呼ぶ。日本では何歳の人でも、同世代でない限り、20 歳の若者に対しては「お兄さん・お姉さん」と呼びかけるだろう。また、

高橋清子. 2005.「タイ語の配慮表現」佐々木倫子（研究代表者）『多言語多文化時代の文化リテラシー：配慮表現をめぐって』（文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（B）課題番号 15320066）「日本語教育と文化リテラシーに関する理論的研究および実践モデルの開発」研究成果中間報告書）, 77-88.
Takahashi, Kiyoko. 2005. Thai Expressions of Consideration. In Sasaki, Michiko (ed.) *An Interim Report of a Theoretical Study on "Cultural Literacy" Applicable to the Teaching of Japanese as a Foreign Language, along with Developing the Practical Model*, 77-88.

タイ人は実際の年齢を重視するので、例えば、義兄であっても年下ならば「お兄さん」ではなく愛称で呼ぶ。日本社会ではフォーマルで丁寧な呼称を用いることがプラスの態度とされ、ある程度の心的距離を保つが、タイ人はフォーマルで丁寧な呼称を使っているといつまでたっても相手に近づけないと考え、相手との心的距離を縮めようとする傾向がある（ケェンチャック 1990）。

３．場面ごとの配慮表現

ここでは、挨拶をする場面、ものを贈る場面、誉められる場面、謝る場面、頼む場面、断る場面を取り上げ、それぞれの場面における具体的な配慮表現を紹介する。

3.1 日常の挨拶

タイ人が日本に来て驚くのは、決まり文句の挨拶言葉が非常に多いことである。「おはようございます」「こんにちは」「こんばんは」「いらっしゃいませ」「お疲れさま」「お先に失礼します」「いただきます」「ごちそうさま」「行ってきます」「行ってらっしゃい」「ただいま」「おやすみなさい」等々の決まった挨拶言葉を覚えて使いこなすことはタイ人にとって容易なことではない。タイ語には「サワッディー（ご繁栄、ご幸福をお祈りいたします）」「サバーイディールー（お元気ですか）」「チョークディー（ご幸運を）」といったいくつかの表現以外には決まった挨拶言葉がないからである。「サワッディー」は朝・昼・晩の出会いと別れに使うことのできる用途の広い挨拶言葉だが、公の場面でしか使われない。普段知り合いに会えば、「ご飯もう食べた？」「どこ行くの？」「どこ行ってきたの？」「今日の服、綺麗だね」など具体的な動作や状態に触れたり、あるいは黙って微笑み合ったりするだけで、決まり文句の挨拶言葉を掛け合う習慣はない。「先日はありがとうございました」「これからもよろしくお願いします」のように過去や未来の関係に言及する決まり文句もない。相手を個人的に知らなければ「いつも主人がお世話になります」「ご主人によろしくお伝えください」といったような挨拶もしない（宮本 1989；サッタヤポン 1992；堀江 1992a）。

別れの言葉や励ましの言葉として日本人は「頑張って」を多用するが、タイ人は「チョークディー（幸運を）」をよく使う。その背景には、他人との競争を好まずマイペースの生活に憧れるタイ人の価値観や、よい人生を送れるかどうかは「業（ごう、カルマ）」によって定められていると信じるタイ人の人生観があるという（堀江 1990b）。

3.2 贈る

日本人はものを贈るときに「つまらないものですが」「粗末なものですが」と言って謙遜するが、タイ人は「これは私のとても好きなものだから、受け取ってください」

高橋清子. 2005.「タイ語の配慮表現」佐々木倫子（研究代表者）『多言語多文化時代の文化リテラシー：配慮表現をめぐって』（文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（B）課題番号 15320066）「日本語教育と文化リテラシーに関する理論的研究および実践モデルの開発」研究成果中間報告書）, 77-88.
Takahashi, Kiyoko. 2005. Thai Expressions of Consideration. In Sasaki, Michiko (ed.) *An Interim Report of a Theoretical Study on "Cultural Literacy" Applicable to the Teaching of Japanese as a Foreign Language, along with Developing the Practical Model*, 77-88.

「これはいい品物ですよ」「これを買うのにとても苦労したんだよ」などと自分の気持ちを率直に伝える。受け取る側も「どうもありがとう、とてもすてきですね」「これ大好きなの」というように自分の気持ちを素直に表す。次に会った時に再び礼を言うことはない。その人に自分が何かしてあげられる機会を待ち、行動を通して感謝の気持ちを表す（堀江 1990a；サッタヤポン 1992）。

3.3 誉められる

自分や自分の家族について誉められたとき、日本人は「いえ、そんなことないですよ」と否定して謙遜する。しかしタイ人は、「ありがとうございます」「あの子はいつも 10 位以内の成績をとってくるんだ」などと言って誉められたことを事実として認めたり、嬉しそうにニコニコして見せる。「結婚した頃は今よりもっときれいだったんですよ」などと自分の意見を加えることもある。タイ人は自分の家族の自慢話を堂々とするのが普通である。事実と異なることを言って謙遜するよりも、事実を口にしたほうが自然でよいと考えているからである。しかし相手との間に一定の距離がある場合は、半ば認めて半ば否定する。そうすれば相手から傲慢だとは思われない。もし言われた誉め言葉に賛成しなければ、その理由を説明し、事実を相手に知らせる（堀江 1990a）。

3.4 謝る

日本人は謝る言葉を社会的エチケットとして使い、人間関係を円滑に保つ。例えば席を譲られたときに日本人はよく「すみません」と言うが、タイ人には理解しがたい。親切にしてもらったなら感謝の言葉を言うほうがよいと考える。親しい友人にものを頼むときにも形式的に謝る日本人を見て、なぜいちいち謝るのだろうと不思議に思う。日本人は謝ることばを頻繁に使いすぎると感じ、日本人の謝り方にマイナスイメージを持っているタイ人が多い。口先だけで謝っているように聞こえ、謝り方が不誠実であると感じられるのである。タイ人の場合、本当に自分が悪いことをしたと思わない限り謝罪の表現を使わない。自らの体面をつぶさないよう、状況を説明して理解してもらおうと試みたり、冗談ではぐらかしたり、沈黙したりする。タイ人は相手に謝ることを要求することはなく、お互いに妥協して耐えること、許し合うことがひとつの解決法であると考えている（堀江 1993a，1993b）。

望ましくない出来事が起きて、自分が故意ではなく加害者になってしまった場合、例えばコップをうっかり落として割ってしまったような場合、日本人であればコップの持ち主に謝るだろう。しかしタイ人はそのような場合、その危機的状況に置かれた自分自身の驚き、失望、恐怖等の気持ちを抑え、隠すために「マイペンライ（何でもない）」と言うことがある。それを聞いた日本人は、たとえ故意でなくても自分の何ら

高橋清子. 2005.「タイ語の配慮表現」佐々木倫子（研究代表者）『多言語多文化時代の文化リテラシー：配慮表現をめぐって』（文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（B）課題番号 15320066）「日本語教育と文化リテラシーに関する理論的研究および実践モデルの開発」研究成果中間報告書）, 77-88.
Takahashi, Kiyoko. 2005. Thai Expressions of Consideration. In Sasaki, Michiko (ed.) *An Interim Report of a Theoretical Study on "Cultural Literacy" Applicable to the Teaching of Japanese as a Foreign Language, along with Developing the Practical Model*, 77-88.

かの行動が原因で相手に迷惑をかけることになったのだから謝るのは当然だ、気を付けていれば起こらなかったかも知れないのだから反省すべきだ、加害者が「マイペンライ（何でもない）」と言うとは何事だ、と怒る人が多い。しかしタイ人は、故意ではないのだから仕方がない、取り返しがつくことだから許容しようと考え、加害者を責めることはしない。被害者側は加害者に対して「マイペンライ（何でもない）」と言って寛容さを表す（堀江 2003）。

3.5 頼む

タイ人の依頼表現は相手との心的距離によって大きく変化する。親しい間柄であれば助け合うのは当然のことなので、気軽に依頼する。面倒な前置きや手続きは省略して即本題に入る。日本人はこうしたタイ人の簡略的で直接的な依頼表現を無礼だと思うことが多い。しかし一定の距離を置かなければならない目上の人に依頼するときは、タイ人も日本人同様、丁寧で間接的な表現を使う。一般的には、まず「お時間はありますか、もしお忙しいようでしたら構いません」と相手の時間の有無を確かめ、依頼すること自体への諾否を求める。相手は肯定も否定もしないまま、まず用件を聞き、それから時間の有無や依頼をすること自体への諾否を答える。その答えが肯定的なものであればそこから依頼に入る（堀江 1995b）。

3.6 断り

タイ人は、頼まれたら助けてあげたいと思うので、断ることが苦手である。どうしても断らなければならない時には、必ず理由を言う。例えば、食事を勧めらたときには「いま食べてきたばっかりです」と言って断る。直接的な断り方はあまりしない。するとしても使用人や見知らぬ人に対してだけである。丁寧に断るときは、謝ってから、断る理由を添える。例えば「ごめんなさい、今、早急に終わらせなければならない仕事を抱えています」など。表現を柔らかくする場合は、「おそらく行けないでしょう」などと推量の言葉を使う。また、「明日でも間に合いますか」「次の機会にしませんか」などと逆に提案して、できる限り助けてあげたいという気持ちを表す（Deephuengton 1992; サッタヤポン 1992; Panpothong 2001）。

４．対人配慮に関わる非言語行動

ここでは、対人配慮に関わる非言語行動として、視線、合掌、微笑み、あごしゃくり、あいづち、座り方、歩き方、手渡し方・受け取り方を取り上げる。

高橋清子. 2005.「タイ語の配慮表現」佐々木倫子（研究代表者）『多言語多文化時代の文化リテラシー：配慮表現をめぐって』（文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（B）課題番号 15320066）「日本語教育と文化リテラシーに関する理論的研究および実践モデルの開発」研究成果中間報告書）, 77-88.
Takahashi, Kiyoko. 2005. Thai Expressions of Consideration. In Sasaki, Michiko (ed.) *An Interim Report of a Theoretical Study on "Cultural Literacy" Applicable to the Teaching of Japanese as a Foreign Language, along with Developing the Practical Model*, 77-88.

4.1 視線

タイ人は、相手が目上の者であろうと目下の者であろうと、普通目を合わせて話をする。目を合わせることで相手に誠意を表す。目をそらせたり相手の身体をじろじろと見たりするのは失礼であると考える（宮本 1988）。

4.2 合掌

公の場で人々が交わす挨拶には合掌礼が用いられている。王に跪拝する宮中礼儀作法の様式を挨拶の様式として発展させ、しつけとして学校教育に取り入れられ一般化したと言われる。必ず目下の者から目上の者へ合掌礼を捧げるのが礼儀である。目上の者は同じように合掌礼を返すが、合掌したときの手の高さが目下の者より低くなる。相手との年齢差や社会的地位の差が不明の場合、合掌礼をすべきか否か、すべきであればどの程度の高さで手を合わせるべきかがわからず、ぎこちない態度になることもある（宮本 1989）。

4.3 微笑み

タイ人はよく微笑む。相手に対して微笑みかけることこそがタイ人にとって最も丁寧で懇ろな待遇表現である。微笑みは、合掌礼と同様、初めて会った人に対しても使える積極的で丁寧な親愛表現といえる（高橋 2004）。微笑みの機能は多様である。挨拶代わりとして使ったり、歓迎の気持ちを伝えたり、敵ではないことを表明したり、謝る代わりに使ったり、感謝されたときや叱られたときにも使う。謝る代わりに見せる微笑みや叱られたときに見せる微笑みは、異文化の人には不愉快に感じられるかもしれない（堀江 1991）。

4.4 あごしゃくり

タイ人は承知や同意の気持ちを表すときによくあごをしゃくる。挨拶代わりにあごしゃくりだけして通り過ぎることもある。あごしゃくりは親しい者同士でないと使えない省略的でぶっきらぼうな親愛表現である。よそ者に対しても使える懇ろな親愛表現である合掌礼とは対照的である（高橋 2004）。

4.5 あいづち

日本人に比べると、タイ人はあいづちを打つ回数が少ない。タイ語のあいづちには、「ウー」「オー」「ルー（そう？）」「チャイ（そう！）」「コーチャイナシー（そうなんだってば！）」「クラップ（丁寧小辞）」といった音声や語句が使われ、うなずきやまばたきなどのしぐさも使われる。心理的に離れれば離れるほど、より形式的なあいづちになる。上流社会に属する人間同士は、庶民同士より、丁寧小辞のような形式張った

あいづちを使用することが多い（宮本 1988）。

4.6 座り方

タイでは、庶民は基本的に床に座る生活をしている。女性も男性も日常生活ではあぐらをかくことが多いが、公的な場面では正式な座り方（正座）をする。女性は日本と同じだが、男性はかかとを上げ爪先で身体を支える。寺院の中で僧侶の説教を聞くときやタイの楽器を演奏するときは横座りをする。

4.7 歩き方

対人配慮をはっきり示す歩き方として、前屈み歩きと膝歩きがある。目上の人が立っているそばを通るときは、頭を下げ、前屈みで歩く。目上の人が床に座っているそばを通るときは、膝で歩く。

4.8 手渡し方・受け取り方

目下の者は、自分の左手で右手の肘を支え、腰をかがめて、目上の者に渡したり、目上の者から受け取ったりする。

５．まとめ

本稿では、タイ語の配慮表現の主な項目だけを取り上げ、そのあらましを述べた。細かな礼儀やタブー、社会的ルールに関連したその他の配慮表現も重要であると筆者は考えているが、本稿では省略する。相手の心情を気遣う表現全般が配慮表現であるとすれば、その範疇は非常に広く、生活環境およびその中での人々のさまざまな活動あるいは認識の型、伝統や歴史といったものすべてを考慮に入れなければならないはずである。ある異文化の人と話をするとき、その人のそうした文化的前提を知らなければ、その人の心情を気遣ってうまくコミュニケーションを行うことは難しい。さまざまな文化について相対的な見方ができ、文化の多様性を尊重する意志を持ち、異文化に対する寛容さや柔軟性を身につけることができて初めて、異文化の相手を配慮することができるのだということを強調しておきたい。

参考文献（日本語・英語）

綾部恒雄. 1971.『タイ族－その社会と文化』弘文堂.
綾部恒雄・石井米雄（編）. 1995.『もっと知りたいタイ（第２版）』弘文堂.
綾部恒雄・林行夫（編）. 2003.『タイを知るための 60 章』明石書店.

高橋清子. 2005.「タイ語の配慮表現」佐々木倫子（研究代表者）『多言語多文化時代の文化リテラシー：配慮表現をめぐって』（文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（B）課題番号 15320066）「日本語教育と文化リテラシーに関する理論的研究および実践モデルの開発」研究成果中間報告書）, 77-88.
Takahashi, Kiyoko. 2005. Thai Expressions of Consideration. In Sasaki, Michiko (ed.) *An Interim Report of a Theoretical Study on "Cultural Literacy" Applicable to the Teaching of Japanese as a Foreign Language, along with Developing the Practical Model*, 77-88.

綾部裕子＆プラサート・ヤムクリフング. 1993. 「ことわざの日タイ比較―人間関係と信用について―」筑波大学地域研究 11, 183-199.

綾部裕子＆プラサート・ヤムクリフング. 1994. 「タイ語の諺について―身分・運命・権力―」筑波大学言語文化論集 39, 71-85.

石井米雄. 1975.『タイ国－ひとつの稲作社会』創文社.

石井米雄・吉川利治（編）. 1993.『東南アジアを知るシリーズ　タイの辞典』同朋舎.

小野沢正喜（編）. 1997.『暮らしがわかるアジア読本　タイ（第２版）』河出書房新社.

カノックポーン・ケェンチャック. 1988. 日本語とタイ語の話しことばにおける人物呼称体系の社会言語学的比較研究. 大阪大学修士論文.

カノックポーン・ケェンチャック. 1989.「タイ語と日本語の人物呼称の用法に関する対照研究」待兼山論叢 23, 61-78.

カノックポーン・ケェンチャック. 1990.「「呼称」の対照研究―タイ語―」日本語学 9.9, 59-64.

ﾛﾊﾞｰﾄ･ｸｰﾊﾟｰ＆ﾅﾝｻﾊﾟ･ｸｰﾊﾟｰ（著）・増永豪男（訳）. 1997.『カルチャーショック 03 タイ人』河出書房新社.

国際交流基金. 2002.『国別文化事情　タイ』

国際交流基金アジアセンター. 1998.『アジア理解講座 1996 年第 2 期「タイ文学を味わう」報告書（講師：宇戸清治）』

ジェトロ・バンコク・センター＆バンコク日本人商工会議所. 2003.『タイ国経済統計集 2003/2004 版』

スチャーダー・サッタヤポン. 1992.「タイの風土・文化と日本語教育」寺村秀夫（編）『講座　日本語と日本語教育 14　日本語教授法（下）』240-256. 明治書院.

高橋清子. 2004.「合掌、微笑み、顎しゃくり（タイ語）」石井米雄・千野栄一（編）『世界のことば・出会いの表現辞典』368-369. 三省堂.

独立行政法人国際協力機構国際協力総合研修所（編）. 2003.『タイ国別援助研究会報告書－「援助」から「新しい協力関係」へ－』

堀江・インカピロム・プリヤー. 1990a.「日本語とタイ語の会話行動における社会文化的相違」東京外国語大学日本語学科年報 12, 1-14.

堀江・インカピロム・プリヤー. 1990b.「日・タイのあいさつ表現からみた社会・文化・価値観のちがい」日本語教育 72, 126-135.

堀江・インカピロム・プリヤー. 1991.「日本人とタイ人の伝達行動―日・タイの非言語伝達行動のちがいについて―」日本語学 10.3, 96-103.

堀江・インカピロム・プリヤー. 1993a.「「謝る」―日・タイの謝ることばと行動の比較―」国立国語研究所報告 105 研究報告集 14, 403-438.

堀江・インカピロム・プリヤー. 1993b.「謝罪の対照研究―日タイ対照研究―」日本語

学 12.11, 22-28.

堀江・インカピロム・プリヤー. 1994.「各国語話者と日本人との誤解の事例―タイ語話者の場合―」西原鈴子（編）『在日外国人と日本人との言語行動的接触における相互「誤解」のメカニズム―日本語と英・タイ・朝・仏語の総合的対照研究―（平成５年度科学研究費補助金研究成果報告書）』49-57. 国立国語研究所.

堀江・インカピロム・プリヤー. 1995a.『日本語と外国語の対照研究Ⅱ：マイペンライ―タイ人の言語行動を特徴づける言葉とその文化的背景についての考察　その１―』国立国語研究所.

堀江・インカピロム・プリヤー. 1995b.「依頼表現の対照研究－タイ語の依頼表現」日本語学 14.10, 76-83.

堀江・インカピロム・プリヤー（聞き手：宇佐美まゆみ）. 1996.「人間関係を表す言葉(4)タイ語の敬語」月刊日本語 9.12, 56-61.

堀江・インカピロム・プリヤー（聞き手：宇佐美まゆみ）. 1997a.「人間関係を表す言葉(5)タイ語と日本語の敬語使用の変化」月刊日本語 10.1, 56-61.

堀江・インカピロム・プリヤー（聞き手：宇佐美まゆみ）. 1997b. 「人間関係を表す言葉(6)これからの敬語」月刊日本語 10.2, 56-61.

堀江・インカピロム・プリヤー. 1997c.「言語行動の対照研究―日本語・タイ語―: 日タイの「マイペンライ」理解の比較に見る言語行動の特徴について」平成９年度国立国語研究所公開研究発表会ハンドアウト, 21-38. 国立国語研究所.

堀江・インカピロム・プリヤー. 2000.『日本語と外国語の対照研究Ⅷ：マイペンライ(2) ―タイ人の言語行動を特徴づける言葉とその文化的背景についての考察その２―』国立国語研究所.

セーンニコーン（宮本）・マラシー. 1981a. 挨拶言葉と日本文化―挨拶言葉における距離の意識―. 大阪大学修士論文.

セーンニコーン（宮本）・マラシー. 1981b.「挨拶言葉における距離の意識」待兼山論叢 15.

宮本マラシー. 1988.「タイ語のあいづち」日本語学 7.12, 24-30.

宮本マラシー. 1989.「私と日本語・日本文化―異文化接触としての日本語学習―」日本語学 8.12, 66-71.

宮本マラシー. 1991.「新年の挨拶状における挨拶―日本とタイの場合―」大阪大学コミュニケーション研究 1, 79-95.

宮本マラシー. 1998.「男女関係における「ピー」と「ノーン」の使い方と性差」大阪外国語大学論集 20, 13-21.

Deephuengton, Phawadee. 1992. Politeness in Thai: Strategies of Refusing and Disagreeing.

University of Kansas.

Ingkaphirom Horie, Preeya. 1985. A Preliminary Investigation of Thai and Japanese Formulaic Expressions. Ph.D. dissertation, University of California, Berkeley.

Ingkaphirom Horie, Preeya and Shoichi Iwasaki. 1996. Register and pragmatic particles in Thai conversation. Pan-Asiatic Linguistics: Proceedings of the 4th International Symposium on Languages and Linguistics Vol. 4, 1197-1205.

Iwasaki, Shoichi and Preeya Ingkaphirom Horie. 1995. Creating the middle ground register in Thai conversation. BLS 21, 95-106.

Makthavornvattana, Thasanee. 1998. The Speech Act of Apologizing in Thai. MA thesis, Chulalongkorn University.

Komin, Suntaree. 1990. Psychology of the Thai People: Values and Behavioral Patterns. Bangkok: Research Center, National Institute of Development Administration.

Panpothong, Natthaporn. 1996. A Pragmatic Study of Verbal Irony in Thai. Ph.D. dissertation. University of Hawaii.

Panpothong, Natthaporn. 2001. Thai Ways of Saying 'NO' to a Request. Manusya: Journal of Humanities 4.2, 63-76.

Prasithrathsint, Amara. 2001. Syntactic Distribution and Communicative Function of the /kh/ Polite Particle in Thai. Journal of Language and Linguistics 20.1, 11-23.